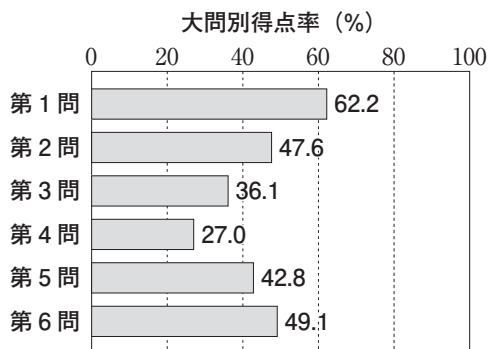
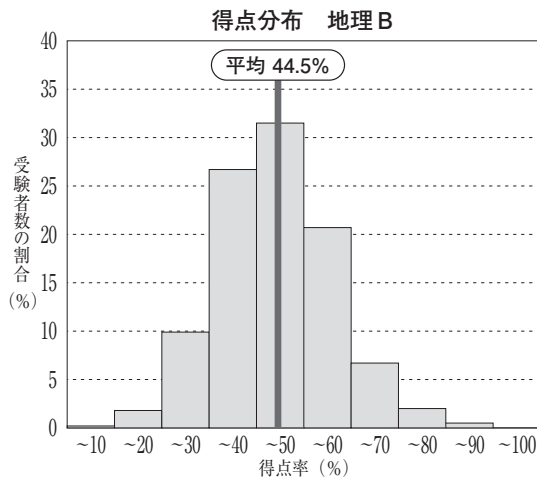


地 理 B

まずは、教科書・図説資料集レベルの基礎知識を習得しよう。

I. 全体講評

今回の平均点は44.5点であり、5割を下回った。今年度最初の模試とはいえ、物足りない結果が出たと言わざるを得ない。今年のセンター試験本試験の平均点67.99点とは23点以上も差がある。基礎知識（特に民族や宗教など文化・社会に関する知識）の不足が原因だ。地理は暗記科目ではないが、教科書・図説資料集レベルの必要不可欠な基礎知識は習得しないと勝負にならない。まずは基礎知識をしっかりと身につけよう。今から計画を立て、効率良く学習に取り組まないと、時間はあっという間に過ぎる。Ⅲ. 学習アドバイスをよく読み、本格的な地理学習に早めに取りかかってもらいたい。



Ⅱ. 大問別分析

第1問 世界の自然環境・自然災害と環境問題
頻出かつ他分野を学ぶ基礎にもなる自然地理で好結果が出た。得意分野に育てよう！

大問全体の平均得点率は62.2%であり、6つの大問中で最も高かった。自然地理分野はセンター試験に毎年出題され、かつ、農業、鉱工業、集落立地、生活文化等の他分野を理解するための基礎にもなる最重要分野である。このまま得意分野に育てたい。問2の正答率が37.4%とやや低く、ブラジル南部の自然と生業に関する基礎知識の不足が明らかになった。ブラジル南部は広大な高原であり（ブラジル高原）、コーヒー栽培に適したテラローシャと呼ばれる土壌が分布する。ここでしっかりと頭に入れておこう。

第2問 エネルギーと鉱工業
繊維工業は労働力指向型の工業である。工業立地の基礎をしっかりと理解しておくこと。

大問全体の平均得点率は47.6%であり、物足りない結果となった。特に問6の正答率が29.4%と低く、振るわなかった。アメリカ、日本、ドイツ、フランスといった先進国が上位の生産国となっているスウェーデンを、綿織物のものと判断してしまった受験者（①または③を選択した者）が、全体の40.0%に達してしまった。綿工業等の繊維工業は、安価な労働力を豊富に必要とする労働力指向型の工業であり、人件費の安い発展途上国に立地しやすい。まだまだ工業立地に関する基礎知識の出来上がっていない受験者が多いようだ。教科書・図説資料集でしっかりと学んでおくこと。

第3問 都市・人口と生活文化
民族構成・宗教構成など、文化や社会に関する基礎知識を早めに習得しよう！

大問全体の平均得点率は36.1%であり、6つの大問中で2番目に低かった。問1と問4の出来が悪かったためだ。問1は、39.0%もの受験者が、ペ

ルに該当する③をアルゼンチンのグラフと判断してしまったため、正答率が10.0%と低くなった。アルゼンチンは白人の割合が高い国であるが、それは先住民の人口密度がもともと低く、入植の拠点とした都市に暮らすヨーロッパ系の人々が圧倒的に多いからである。ゆえに都市人口割合が極めて高い。問4は、誤答④の選択率31.0%が、正答率21.4%を大きく上回ってしまった。3割を超す受験者が、ムスリムの多いバングラデシュの多数派宗教をヒンドゥー教と述べる④を正文と判断してしまった。民族構成とそれが成立した歴史的背景、宗教構成とそれが影響している社会問題等は極めて重要である。教科書・図説資料集レベルの基礎知識を早く習得してほしい。

第4問 西アジア・中央アジア地誌

民族や宗教は、社会のあり方を理解するためのカギとなる。しっかりと学習すること。

大問全体の平均得点率は27.0%であり、6つの大問中で最も低かった。正答率が5割を超えた小問は一つも無く、全体的に極めて低調な出来であった。気になった点を挙げていきたい。問1は、誤答④の選択率が23.1%とやや高かった。4分の1弱の受験者が、中央アジアのサマルカンドをユダヤ教の聖地と判断してしまった。ユダヤ教がイスラエルの民族宗教であることは基本中の基本である。問3は、女性の労働力率が高いRを、ムスリムが大多数のサウジアラビアまたはシリアと判断してしまっただ受験者(①, ②, ③, ⑤を選択した受験者)が、全体の64.5%に達してしまっただ。中東のイスラーム社会で女性の社会進出が進まないことも基本中の基本である。問4、問5も民族・宗教に関する出題であったが、それぞれの正答率は28.0%、35.6%と低かった。民族や宗教に関することがらは、国や地域の社会のあり方を理解する上で極めて重要な要素となる。しっかりと学習しておくこと。問6の正答率も7.5%と低かったが、「原油の輸出に依存した経済」という文言に惑わされ、カザフスタンについて述べたイを、サウジアラビアのものとして勘違いした受験者がかなり多かった。もう少し丁寧に選択肢を吟味してほしい。

第5問 チリ・ノルウェー地誌

気候の図表問題はセンター試験頻出の問題である。図表を読み解く能力を高めよう。

大問全体の平均得点率は42.8%であった。問1の月降水量グラフの問題が手強かったらしく、全ての選択肢の選択率が20%台であった。つまり、当てずっぽうでランダムに正解を選ばざるを得なかった受験者がかなりいたということになる。気候グラフや気候データの表を読む問題はセンター試験には毎年出題される。解説をよく読み、南半球の季節は北半球と逆であること、寒流が海岸砂漠の形成に影響を与えること、偏西風帯では山脈の東西で気候が大きく異なること等をしっかりと理解し、図表を読み解く能力を高めよう。

第6問 地域調査(鹿児島県)

地理的センスを問われる地域調査の大問でまずまずの結果が出た。自信を持とう!

大問全体の平均得点率は49.1%であり、この時期としてはまずまずの結果となった。多くの受験者が帯状の集落を自然堤防上の集落と判断してしまっただ問4(正答率13.8%)のほかは、極端に出来の悪い問題は無かった。地域調査の大問では、地図や統計図表を読む力など地理的なセンスが問われる。地域調査の大問で好結果を出した受験者は自信を持ってよい。よく学習して、得点源に育てよう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆まずは基礎知識を習得しよう!

センター試験の地理で求められる能力は暗記力ではないが、高校地理の基礎知識を習得せずに高得点は望めない。実際、今回の結果を見ると、正答率の低い問題の多くが基礎知識(特に文化や社会に関する知識)の不足によるものであった。細かい地名・用語を片端から覚える必要はないが、教科書や図説資料集で扱われる事項については、その内容を詳しく理解し、頭に入れる必要がある。まずは、地形、気候、農業、鉱工業、人口、都市、生活文化、民族、宗教、地誌…のように、高校地理の全範囲を、項目毎に分けて網羅してある問題集を用意し、教科書や図説資料集を参考にしながら、完全解答を作るつもりで取り組んでみるとよい。そのような学習を積み重ねれば、基礎・重要事項がおのずと頭に入ってくる。